

最上川改修計畫概要

附酒田港修築工事概要

目 次

口 繪

一、下瀬閘門

(山形縣酒田市地先)

二、中央突堤

(山形縣西田川郡袖浦村地先)

三、酒田港内護岸工事

四、酒田港内護岸工事用L型塊運搬作業

五、山寺亂流部遠望

(山形縣鶴海南郡上郷村地内)

六、西山新川開鑿個所

(山形縣西田川郡袖浦村地内)

七、内川新放水路

(山形縣鶴岡市地内)

最上川改修工事概要

總

說

河狀並計畫大要 ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… 三

最上川支川赤川開鑿平面圖 ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… ………………

酒田港修築工事概要 ……………… ……………… 九

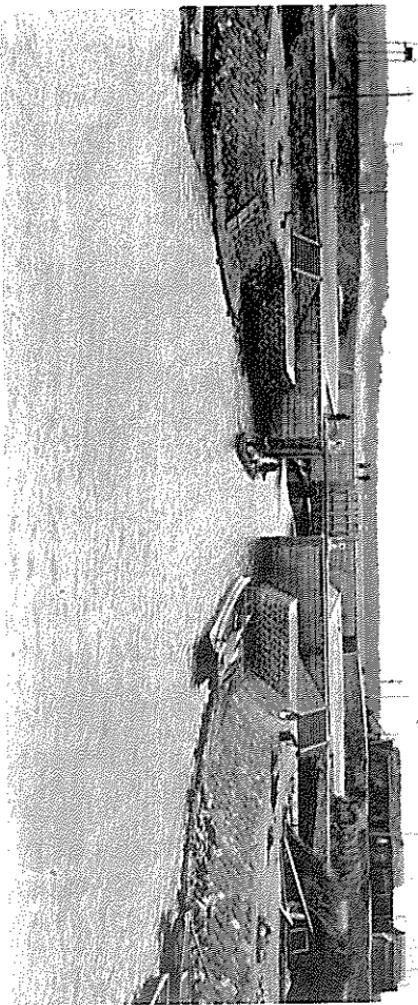
總說並計畫大要 ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… 九

酒田港修築工事平面圖 ……………… ……………… ……………… ……………… ……………… ………………

(一)

下瀨閘門

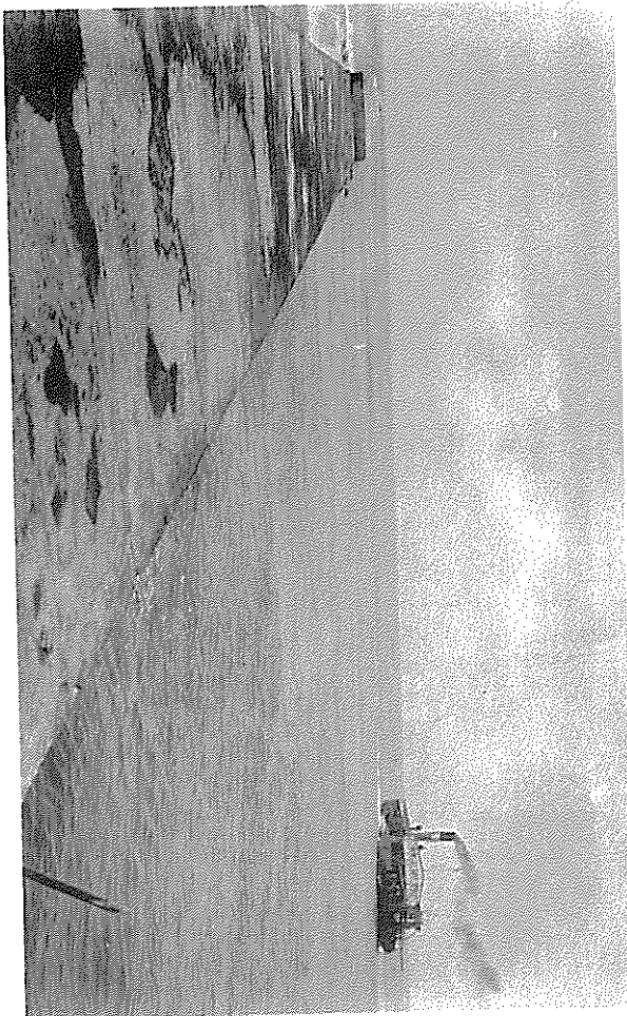
山形縣酒田市地先 有效幅員五米、開室長四二、〇米



(二)

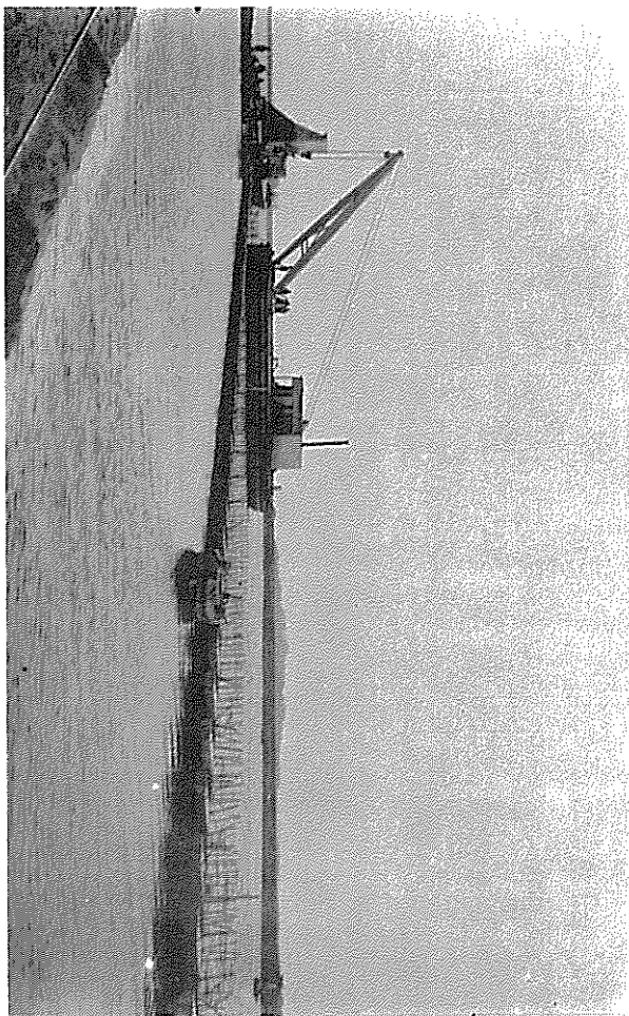
中 央 突 堤

山形縣西田川郡船浦村地先、左方八新最上川河口右方八
酒田港、浚港船神通丸ニ航路浚渫中



(三)

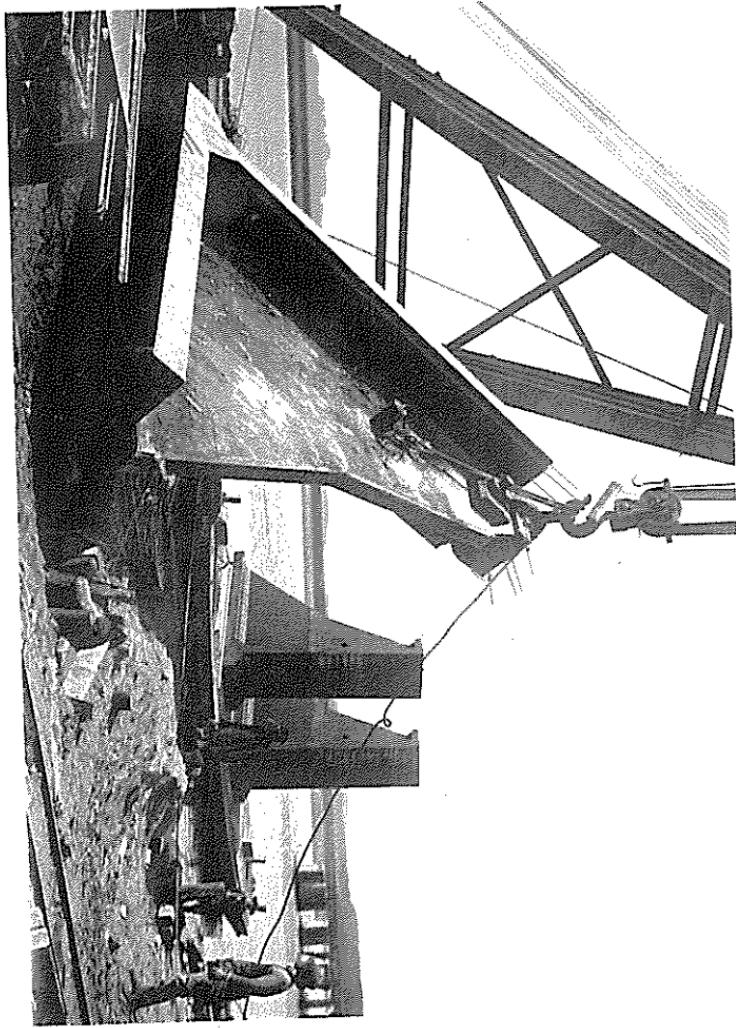
酒田港内護岸工事



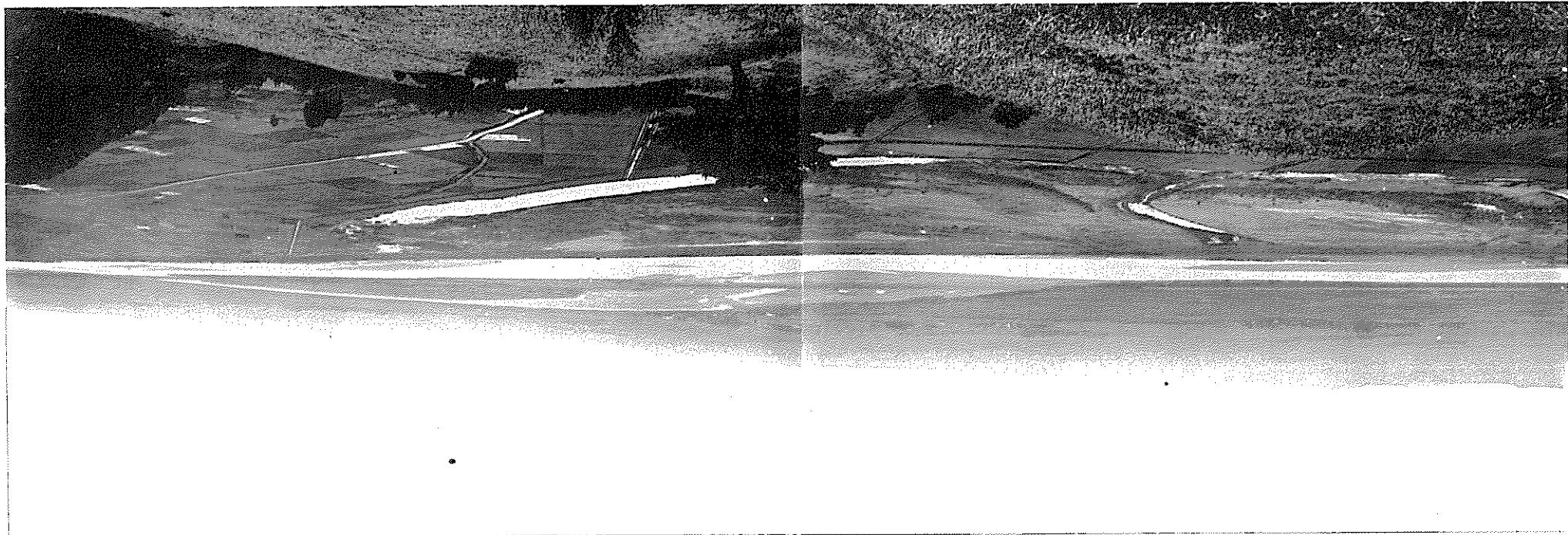
(四)

酒田港内議序工事用 I 型塊運搬作業

I 型塊重量 (二十三噸)

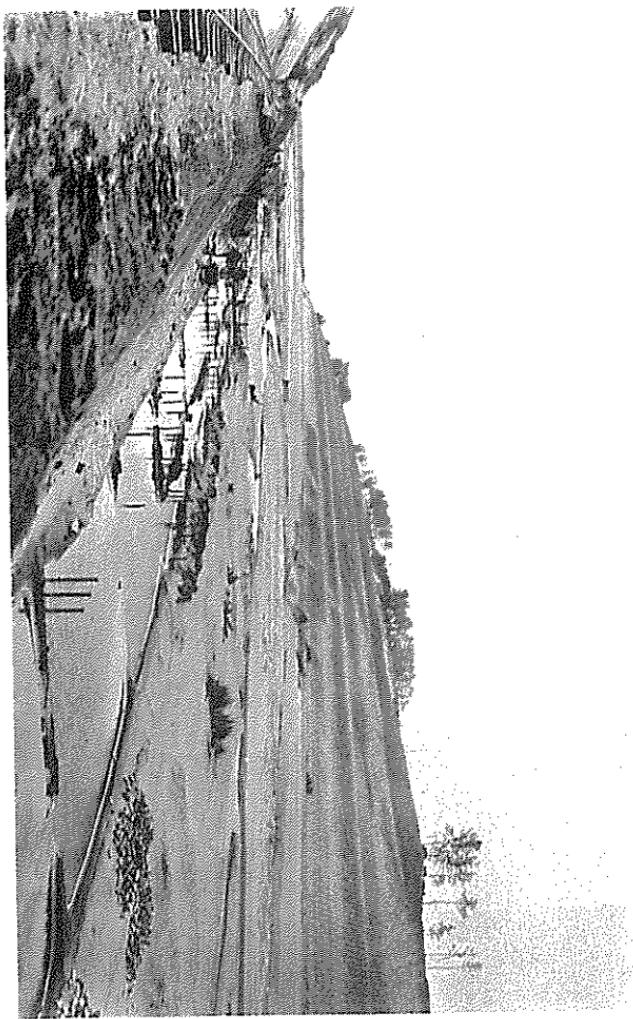


山東省鄆縣縣長公署
（新四軍總指揮部）



(六) 西山新川開鑿個所、下流部ヨリ上流ヲ望ム

山形縣西田川郡舩浦村地内
新川延長二千七百米突
法留總面積四萬七千方米
烟礮總土量合基立方米
護岸總面積三萬三千方米

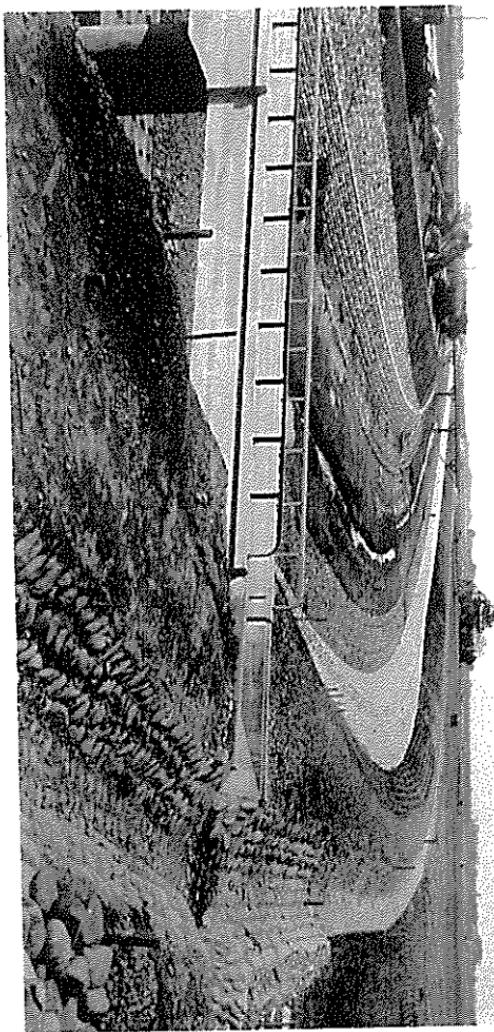


(二)

内川

新放水路

山形縣鶴岡市地内、上流部ヨリ下流部ヲ望ム



最上川改修計畫概要

最上川改修計畫概要

總說

本工事ハ、曩ニ政府ニ於テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシ、工費七拾六萬四千九百八拾四圓ヲ以テ、明治十七年年度ヨリ、其工ヲ起シ、同三十六年年度ニ至リ、之カ竣功ヲ告ケタリシカ、其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ、更ニ洪水防禦ヲ目的トシテ、大正六年度ヨリ、同十五年ニ至ル、十箇年ノ繼續事業トシテ、工費八百貳拾萬圓（内山形縣負擔額貳百拾九萬九千圓）ヲ以テ起工セラレタリ。其區域ハ、幹川左岸山形縣東田川郡清川村、右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル、約三十二秆間、支川赤川ハ、左岸同縣東田川郡齋村、右岸同縣同郡廣瀬村以下幹川合流點ニ至ル、約二十三秆六ノ間ナリシカ、大正十年三月、支川赤川改修工事ノ計畫ヲ變更シ、大山川合流點附近ヨリ、同縣西田川郡袖浦村地内、西山砂丘ヲ開鑿シ、直チニ日本海ニ放流セシムルコトトシ、尙同年五月山形縣知事ノ申請ニ依リ、最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ、酒田港改

築工事ヲ施行スル爲メ、百五十萬圓（全部山形縣負擔）ノ工費ヲ追加シ、繼續年度ヲ大正十七年度迄延長スルコトトナレリ。然ルニ又赤川支川内川ノ合流點ハ、單ニ開放スルノ計畫ナリシモ、昭和四年六月ニ至リ、山形縣ノ希望ニ依リ、之ヲ變更シ、内川合流點ヲ遞下シ、鶴岡市内ノ汎濫ヲ防止スルコトセリ。其工費貳拾壹萬圓、山形縣ニ於テ材料、勞力其他ヲ以テ拾萬五千圓ヲ負擔シ、殘餘拾萬五千圓ハ、既定豫算ノ範圍内ニ於テ施行スルコトトナレリ。

而シテ工事ハ着手以來、銳意其進捗ヲ圖リシカ、時局ノ影響ヲ受ケ、豫算ニ不足ヲ生シタル爲メ、總工費ヲ壹千五百萬圓ニ増加シ、昭和七年度迄工期ヲ延長セルモ、偶々關東大震災ノ爲メ、經濟緊縮ノ餘波ヲ受ケ、更ニ昭和十一年度迄續延ヘラ爲シタル爲メ、結局二十箇年ノ繼續事業トナレリ、然ルニ其後一般財界ノ不況ニ因リ、國庫財政ノ緊縮ヲ要セシ爲メ、昭和三年度以降ニ於テ、拾五萬圓ヲ節減セラレ、總工費ヲ壹千四百八拾五萬圓ニ改メラル、其後亦昭和六年度以降、年度割改訂ニ因リ、更ニ工期四箇年延長シ、昭和十五年度ニ於テ竣工セシムルコトトシ、工費九拾八萬七千六百九

拾壹圓ヲ減シ、結局總工費壹千參百八拾六萬貳千參百九圓ヲ以テ、既定計畫ノ工事ヲ遂行スルコトトナレリ。

河狀並計畫大要

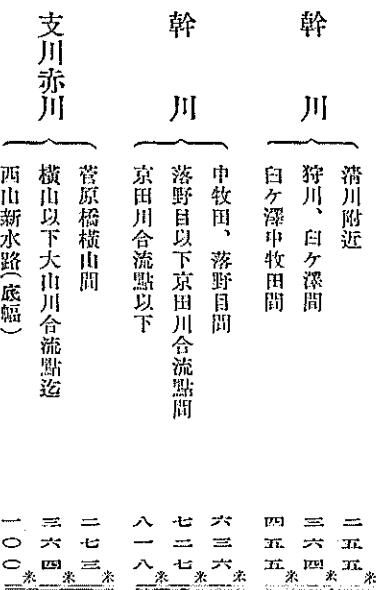
本川ハ、奥羽河川中、北上川ニ亞ク大河ニシテ、山形縣一圓ヲ環流シ、其流域面積ハ、七千四百三平方糸、其水源ハ南置賜郡吾妻山ニ發シ、流路延長二千三百六十八糸（内幹川二百十六糸）航路延長四百五十九糸（内幹川百九十六糸）ヲ算ス。分水界ハ東南北ノ三方高嶽連峰聳立シテ、只西部ノ一方ノミ日本海ニ面シ、河口ハ、著名ナル酒田港ヲ成ス。沿岸ノ耕地ハ、ヨク整理セラレ、灌溉反別ハ、大略五萬七千三百十六ヘクタール（内幹川一千九百五十ヘクタール）ニシテ、米穀ノ平均年產額ハ、約百五十萬石ナリ、然レトモ、該流域内ノ降水量ハ、一ヶ年二千耗以上ヲ示ス地方多ク、就中幹川上流松川及支川須川、同鮭川、同赤川等ノ各上流ハ、本洲ニ於テモ有數ノ降雨地ナルヲ以テ、洪水氾濫ノ害亦甚シク、其水害區域ハ、三萬七千二百九十七ヘクタール

(内幹川一萬四千四百ヘクタール)ニシテ、其損害高ハ、大正元年ヨリ同十年ニ至ル、十箇年ノ損失平均年額百拾參萬壹千六百圓ニ上ル、就中、大正二年ニ於ケル、五百拾五萬四千五百拾八圓、同九年貳百四拾四萬六千六拾七圓、同十年八百參拾五萬參千七百七拾圓ノ多額ニ達セリ、其慘實ニ甚大ナリト謂フヘシ。

本改修計畫ハ、洪水防禦ヲ主トスルモノニシテ、工事ヲ水害最モ大ナル範圍ニ局限シ、幹川ニ在リテハ、計畫最大流量每秒六、九五〇立方米、赤川ハ每秒一、六七〇立方米ノ疏通ヲ期シ、幹川ハ、東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二杆、支川赤川ハ、鶴岡市附近以下海ニ至ル約二十杆ノ間ヲ施行シ、以テ水害ヲ除却シ、水路ノ改善ヲ計リ、舟運ニ利セントスルモノニシテ、之カ爲メ河幅ヲ整理シ、堤防ノ不規律ヲ更メテ、之ヲ強固ニシ、無堤地ニハ、新堤ヲ築キ河積不足ノ箇所ハ、掘鑿又ハ浚渫ヲ施シ、屈曲部ハ、之ヲ直通セシメントスルモノナリ。

而シテ本改修區域内ノ幹川最上川ハ、急流ニシテ河狀極メテ不規律、又支川赤川ハ、緩流ニシテ、兩岸堤防アルモ、廣狹不同ナルヲ以テ、本計畫ニ於テ標準河幅ヲ次ノ如

ク定メタリ。



新堤ハ、天端六米三、兩法二割トシ、其天端ハ、計畫高水位以上一米五タラシメ、在來ノ堤防ハ、相當擴築シ、水勢ノ激突著シキ箇所ハ、總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス。而シテ、三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ、天端ヨリ三米下リテ、裏法ニ幅一米八以上ノ小段ヲ設ケ、其以下ヲ二割五分法トシ、更ニ直高五米五以上ノ場合ニハ、

天端ヨリ五米五下リテ兩法ニ幅二米七以上ノ小段ヲ設ケ、其以下ヲ三割法トス。
支川赤川ハ、流末ナル西田川郡袖浦村大字黒森地内大屈曲箇所ニ於テ、西山砂丘ヲ
貫キ、長サ二千八百米ノ新水路ヲ開鑿シ、同川ヲ海ニ放流セシメントス。其掘鑿土量
ハ八百五萬立方米、底幅百米、切削高四十五米ナリ。之レカ爲メ上流洪水ノ停滯時間
ヲ短縮スルノ効果著シキモノアルヘシ。

又小支川内川ハ、從來赤川ノ出水毎ニ其逆流ヲ受ケ、鶴岡市及其附近ハ、常ニ氾濫
ノ災ヲ蒙リシヲ以テ、延長一千百三十七米ノ新水路ヲ掘鑿シテ、其合流點ヲ引下ヶ水
害ヲ根絶セシムルモノトス。

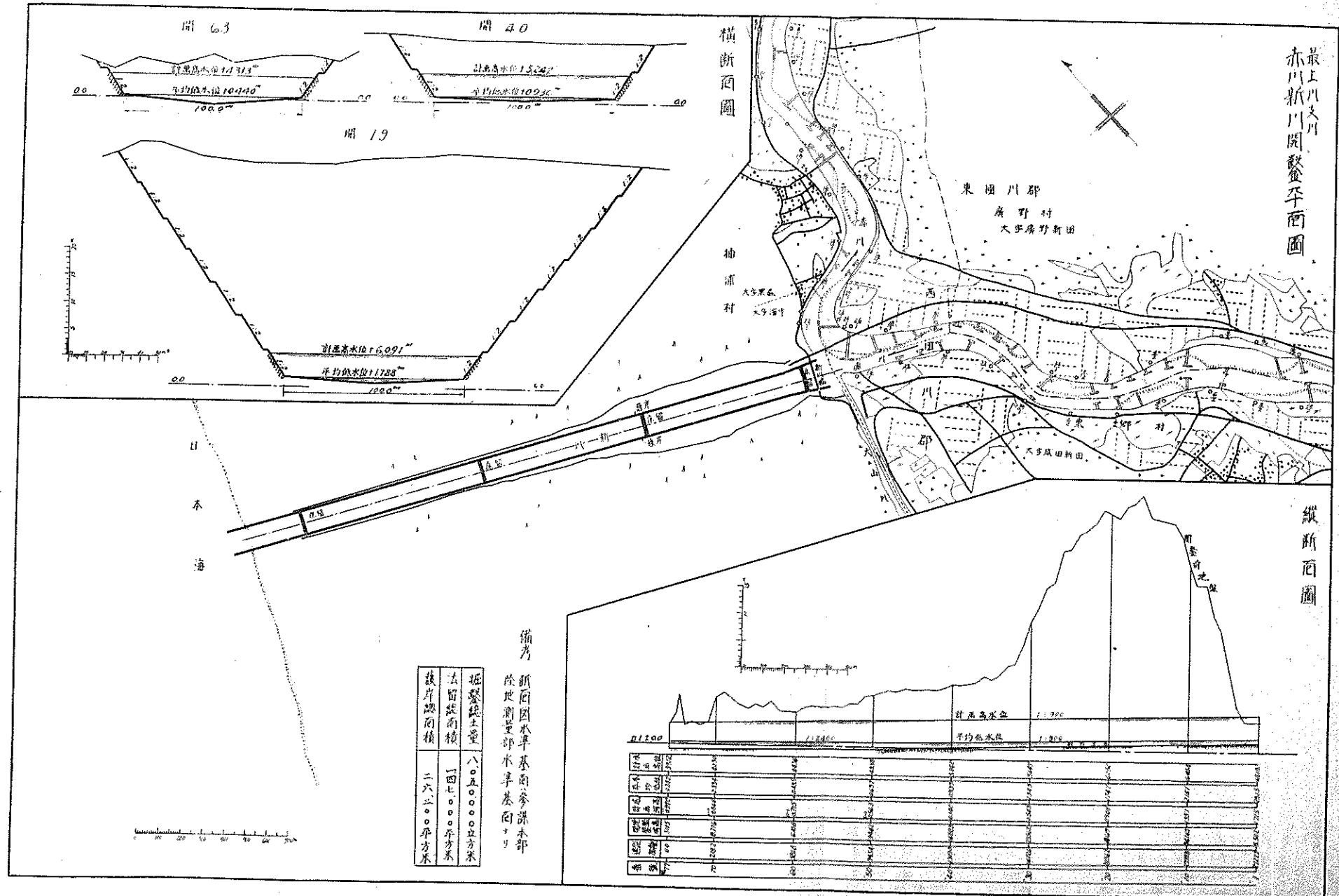
京田川ハ、從來最上川、赤川兩川出水ノ都度、其逆流ト自川ノ出水トニ因リ、沿岸
ノ沃野ニ氾濫シ、被害ヲ及ホシタルヲ以テ、赤川分疎ニ隨ツテ、最上川左岸堤防ヲ延
長シ、其合流點ヲ下流ニ移スコトニ因リ、自然排水ヲ良好ニシ、併セテ、逆流ノ被害
ヲ輕減セシムルモノトス。

最上川河口ハ、酒田港ト全然分離シ、南ニ移シ、右岸新堤ハ、酒田市對岸中洲上ニ

築キ、本川ト酒田港トノ連絡ニハ、閘門ヲ設ケ、尙右岸堤先端ニ接續シテ、長サ六百
四十四米（水深九米ノ海中ニ達スル迄）ノ防波堤（中央突堤）ヲ設ケ、左岸堤防ノ先
端ニハ、長サ二百二十七米ノ防砂堤（南突堤）ヲ築造ス、又酒田港ハ、其港口ニ於
テ、中央突堤ト相對シテ、水深九米ノ海中ニ達スル迄ノ防波堤（北突堤）ヲ築キ、以
テ漂砂ノ浸入ヲ防クト共ニ港内ハ、低水面以下一米乃至七米六ニ浚渫シテ、沿岸ヲ埋
立テ、且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス。

附帶工事トシテハ、橋梁ノ増設、架換ヲ施シテ、交通ノ利便ヲ増進シ、又水門、樋
門ノ新設及用排水路ノ改築等ヲ施行シテ、從來ノ水害ヲ除去シ、併セテ利水ノ途ヲ改
善セムトスルモノナリ。

昭和八年五月



酒田港修築工事概要

酒田港修築工事概要

(山形縣起業)

酒田港ハ北緯三十八度五十五分、東經百三十九度四十九分ニ位シ、山形縣唯一ノ商港ニシテ、新潟、船川兩港ノ略ホ中間、最上川河口ニアリ。後方地域トシテハ、山形縣一圓、秋田縣由利郡ノ一部及ヒ新潟縣北端ノ一部ヲ有シ、道路鐵道等陸上ノ交通機關四通八達シ本港ト背地トノ連絡極メテ便ナリ。

本港輸移出入貨物ハ、最近數ヶ年間ニ於テハ、平均十四萬六千噸、價格參百五拾萬圓餘ニシテ、後方地域ノ廣大ナルニ比シ、其ノ港勢ノ振ハサルモノアルハ、主トシテ最上川ノ流出土砂及ヒ海岸漂砂ニ因ル港口水深ノ減少ニ起因スルモノニシテ、最上川改修工事ノ進捗ハ、本港ノ根本的障害ノ一半ヲ芟除スルニ至ルヘク、今ヤ背地ノ經濟的事情ハ本港ノ修築ヲ促進シテ息マサルモノアリ。

本港ハ山形縣知事ノ申請ニ依リ、大正十年度ニ於テ、最上川改修計畫ノ一部ヲ變更

シ、最上川幹川ヲ酒田市上流部ヨリ一條ノ瀬割堤ヲ以テ全々分離セシメ、新ニ左岸寄リニ河道ヲ掘鑿シ、從來ノ本流ヲ港灣ノ水域トシテ利用スル事トシ、港口ニ於テハ、左右ニ延長各々約六百五十米ノ突堤ヲ築造シテ、波浪ノ浸入ヲ防キ、港内ハ、一米八乃至七米五ニ凌渫シテ、三千噸以下ノ船舶ノ港内碇船ニ便ナラシメ、海陸連絡設備トシテハ、船場町埋立地先ニ、水深四米五ノ岸壁ヲ、延長六百五十米、同シク一米八ノ物揚場護岸、延長五百八十米ヲ築キ、最上川ト、港トノ連絡ハ、下瀬地内ニ、閘門ヲ設クル事トセリ。

然ルニ本港ハ、昭和四年六月第二種重要港灣ニ編入セラレ、爾來港勢ノ増進ニ鑑ミ、將來ニ於ケル本港ノ擴築、改善等ニ就キ考究ノ後、其計畫モ略ホ完成シ、實行ノ機運ニ近ヅキタリシモ、時局ノ影響ニ依リ延期ノ止ムナキ狀態トナリタリ。

今其計畫ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、防 波 堤

目下施行中ナル、最上川改修工事ニ依ル、中央突堤ヲ更ニ百八十米延長シ、

水深十米ニ達セシメ、波浪ヲ防クト共ニ漂砂ノ港内ニ浸入スルヲ防止ス。

二、岸 壁

光ヶ丘埋立地南西部ニ、水深六米岸壁延長二百五十米ヲ築造シ、三千噸級汽船二隻ヲ繫留スルヲ得セシム。

三、物 揚 場 護 岸

岸壁ニ接續シテ、物揚場護岸延長六百米ヲ築造シテ、小型船舶ノ接岸荷役ニ供ス。

四、護 岸

水深三米ナル、船溜護岸延長三百二十米ヲ築造シ、尙ホ貯木場及ヒ之ニ連絡スル水路ニハ、護岸延長八百七十米ヲ築造ス。

五、凌 渋

光ヶ丘埋立地區南西端物揚場前面ヲ水深三米ニ凌渫シテ、船溜ニ充テ、尙ホ貯木場及ヒ之ニ連絡スル水路ヲ水深一米八ニ凌渫ス。

六、埋立

現在施行中ナル最上川改修工事ニ依ル、浚渫土捨場ナル酒田市光ヶ丘六十萬
平方米ヲ埋立テ、陸上設備並ニ市街地工場用地等ニ充ツ。

七、貯木場

埋立地西端部ニ、長百九十米幅員百五十米水深一米八ノ貯木場ヲ設ク。

酒田港修築ノ計畫ハ、敍上ノ如シト雖モ、國家及ヒ地方財政ノ都合上、先以テ緊急
ヲ要スル部分、即チ防波堤ノ延長工事及ヒ水深六米岸壁工事ノ一部ヲ昭和八、九兩年
度ニ於テ、總工費七拾萬圓ヲ以テ施行竣成セシメントス。

以上

昭和八年五月

内務省新潟土木出張所

明治廿九年十一月廿日 沿岸圖

